

□9月21日説教(隅野徹牧師)短縮版
「一つとなる約束」(エゼキエル37:15～28)

今日の聖書箇所として選んだエゼキエル37章の14節からは「神が別々の歩みをしている二つのものを一つにされるかについて」味わうことが出来ますが、さらに深くあじわうために新約聖書からエフェソの信徒への手紙2章14節から18節を併せて読みます。エフェソ書でパウロは「ユダヤ人と異邦人との間にある壁」のことを言おうとしています。ユダヤ人と異邦人にあった「壁」の原因の一つとしてパウロは「律法」をあげています。律法とはユダヤ人にとって「正しさ」の象徴です。自分は律法に従っているから、正しく生きている、間違っていないと考えているのです。ユダヤ人は、唯一の神で主を信じない人々を“異邦人”と呼び、彼らを汚れた人間として忌み嫌いました。そうして「敵意という壁」が生まれていきました。私たちにも一人ひとり、自分の中に「これが正しい」と信じる考えがあるのだと思います。しかし自分の考えの正しさにこだわって、相手の考えを排除するとき、摩擦や対立、争いという「敵意」が生まれます。

律法の規則と戒律を一語一句細かく守ることこそ大切だと主張するユダヤ人の指導者たちに対して、イエス・キリストは、「律法の教えの中心は、神を愛することと、隣人を自分のように愛することの二つだ」と教えました。15節の「規則と戒律ずくめの律法を廃棄されました」という言葉のようにイエスは「愛することこそが大切だ」ということを、その生き様を通して示されたのです。そしてキリストは公生涯の最後、「十字架にお架かりになることで、究極の愛」を表されたのです。ご自分を陥れ、十字架刑に処そうとする人たちをも憎まず、「父なる神よ、彼らをお赦しください」と十字架の上で祈られました。そして、復活された後、うらぎってしまったことで落ち込んでいる弟子たちのもとに現れ、彼らを赦し、立ち上がらせたのです。まさに敵を赦す愛をイエス・キリスト自らが表してくださったのでした。

このようにキリストによるならば「国籍、人種、もともとの宗教観の違い」は乗り越えられ、「敵意や壁を乗り越え、新しくされた人」が生まれるのです。今日の聖書箇所のエゼキエル書37章14節以下の預言は、このようにして実現するのだ、ということを中心に留めましょう。(終)